

# 津波ハザードマップ

## 津波ハザードマップの見方

この津波ハザードマップは避難場所、津波避難ビル、防災関係機関等の位置を記載した地図情報及び地震発生時に想定される津波の浸水域と浸水深を記載しています。

この津波ハザードマップの浸水域や浸水深は、過去に発生した津波や今後発生が想定される津波に基づき推計された最大クラスの津波によるものを記載していますが、津波による被害の範囲を決定するものではありません。

浸水域や浸水深は津波の第一波よりも第二波以降に最大となる場所があります。また、地面の凹凸や構造物等の影響により、浸水域外でも浸水が発生したり、局所的に浸水深がさらに大きくなったりする場合があります。

地震による揺れを感じたらすぐに高台へ避難し、地震の情報を確認後、さらに大きな津波のおそれがある場合には、より遠くへ、より高台へ逃げるなど、段階的な避難を心がけることが大切です。

いざという時に備え、自宅周辺の避難場所や危険箇所等を確認しておきましょう。

※下記の浸水予測図は、浸水域と浸水深が最も大きくなる別府湾の活断層型地震を記載しています。

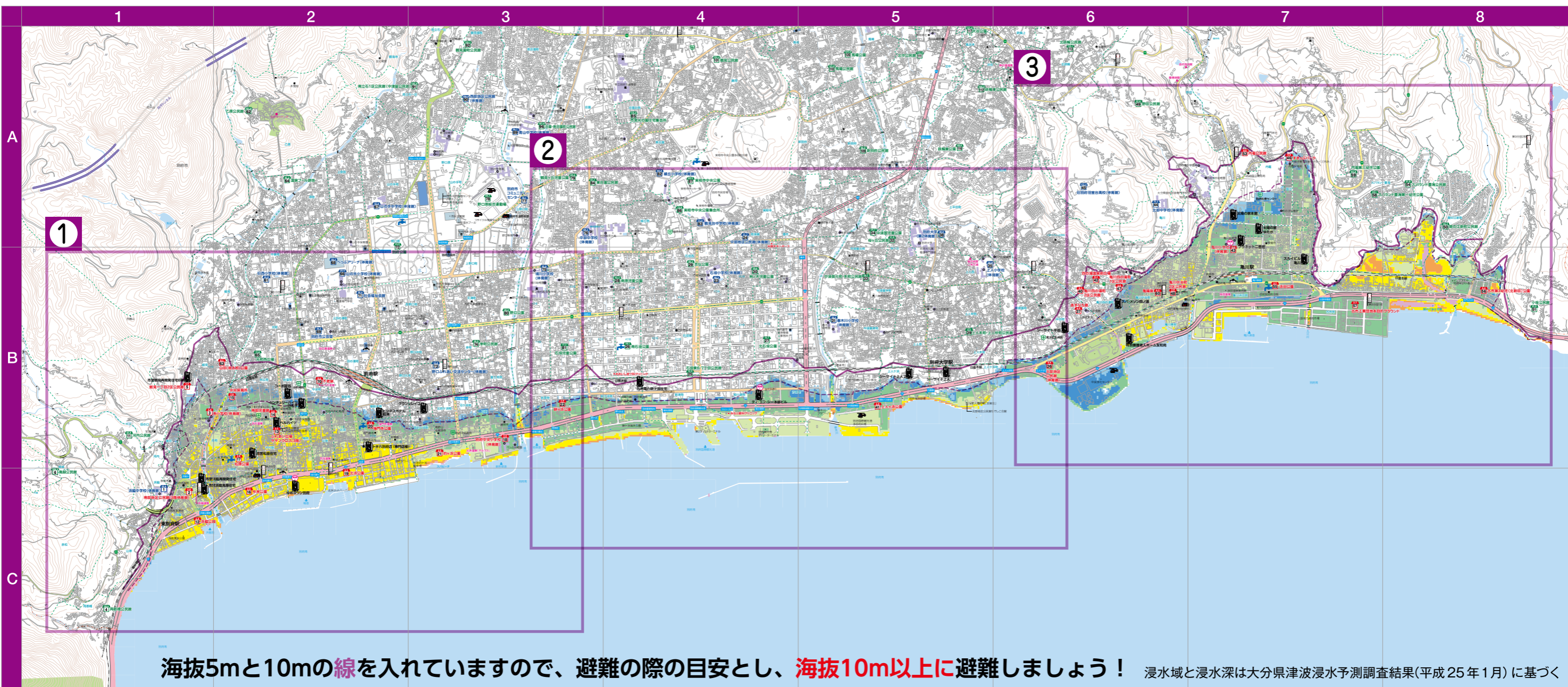
### 最大浸水深 (m)

- 0m以上～0.5m未満
- 0.5m以上～1m未満
- 1m以上～2m未満
- 2m以上～3m未満
- 3m以上～4m未満
- 4m以上～5m未満
- 5m以上～10m未満

- 海拔5m線
- 海拔10m線

### 凡 例

- |  |  |
|--|--|
|  収容避難所      |  一時避難場所             |
|  津波避難ビル     |  津波時に使用できない避難場所・避難所 |
|  消防施設       |  警察施設               |
|  消防団施設      |  救急告示病院             |
|  ヘリコプター離着陸場 |  飲料水兼用耐震性貯水槽        |
|  |  サイレンスピーカー          |



海拔5mと10mの線を入れていきますので、避難の際の目安とし、**海拔10m以上に避難しましょう！**

浸水域と浸水深は大分県津波浸水予測調査結果(平成25年1月)に基づく